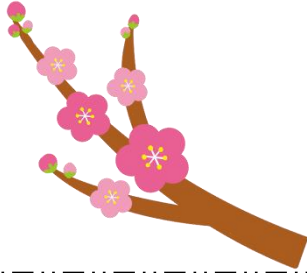


いっく うっく
厳し美しいの里



だより



発行者：厳し美しいの里協議会
(会長 小岩次男)

(事務局)

〒021-0101

一関市厳美町字沖野々116-6

一関市厳美市民センター内 鈴木

TEL29-2205 FAX29-2251

Genbicc.jp



令和6年4月1日発行 第19号

岩手宮城内陸地震の 記録を探しています

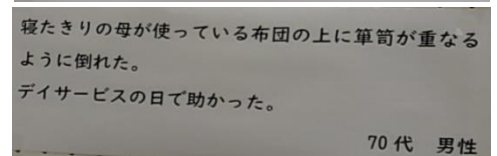
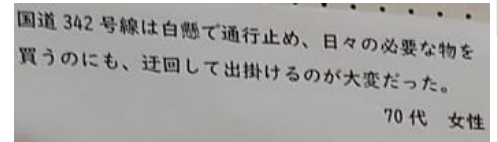
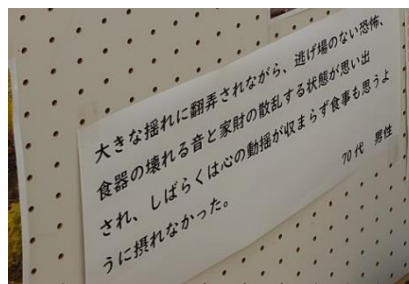
2008年6月14日午前8時43分に発生した、岩手・宮城内陸地震を後世に伝える手段として、山谷地域の皆さんを中心に、かつて避難所となった山谷分館に震災資料を展示し、震災、防災学習の場として活用するための活動を継続してきました。

R6年度は、厳美地域の皆様から寄せられていた、震災当時の写真や体験談を少しずつではありますが山谷分館に展示していく予定です。そのため、すでに皆様からは震災を語り継ぐための貴重な写真や体験談などの資料を多数いただいておりますが、再度、避難所として使用していた頃の山谷分館の写真や体験談などの資料を募集いたします。

また、岩手宮城内陸地震によって壊れてしまった時計など、地震の凄まじさを体感できる物品も併せて募集します。

お心当たりのある方は、厳美市民センター（29-2205 担当：鈴木）までご連絡ください。

R5年度 厳美地区民文化祭で「震災伝承の歩み」として震災の体験談を展示



皆様から寄せられている震災後の写真



昇仙橋



白崖



市野々原橋

伝え残したい 厳し美しの風景 「きらり・ひかる」～小猪岡編～



下小猪岡集会所にて、12月～3月の農閑期の毎週木曜日に、代表の佐藤さんを中心に、小猪岡14区、15区の約12名のお母さんたちが「小猪岡女子会」と称して、料理やおやつを持ち寄り、編み物や縫い物などを教え合いながら、会話に花を咲かせている。

この日は、小猪岡産の大豆で手作りした納豆を使った納豆餅、冷凍保存していた枝豆を使ったずんだ餅、その他にも煮物やお浸し、パンケーキなどの御馳走が勢ぞろいした“たばご”に舌鼓を打ちつつ、会話やクラフトバンド、PPバンドのバック作りなどの手仕事に精を出していた。

女子会のみなさんは、「手よりも口を動かすのに忙しい」、「にぎやかすぎて誰の話しを聞いていか分からなくなる」と笑顔で話される様子から、この会を心から楽しんでいることが伺える。

女子会に参加している方々は、持ち寄ったお料理のレシピを教えあうことで料理のレパートリーも増え、家に帰って早速作ってみたりと、食事作りへのモチベーションにもつながっているし、こんな風にみんなとコミュニケーションが取れることが何よりとても大事、と話される。

この会が始まってからおおよそ10年、コロナ禍を経験した後も、人間関係の疎遠化、孤立、孤独といった様子は見られず、きらきとした笑顔でいっぱい的小猪岡の皆さんでした。

編集後記：今月号の伝え残したい厳し美しの風景は、14、15区「小猪岡女子会」の皆さんのご紹介です。地域を明るくする、魅力的な笑顔があふれる皆さんでした。暖かくお迎えいただき、ありがとうございました。（鈴木）

